

大学院修了にあたって

大学院修了にあたって

加齢・高齢者歯科学分野 田 口 裕 哉



写真は左が池田君、右が田口

年も変わり、1月23日やつとの思いで学位論文を提出したのに、1月31日までに歯学部ニュースの原稿を提出せよ

とのこと。また締め切りだ…。

4年間の大学院生活は「スゲー楽しかったっ！」の一言に尽きる。医局の雑用や動物舎への往復、学会前の眠れない日々など、その時その時でそれなりにつらいこともあったけれど、よく飲み、よく遊び、そして少し学んだ充実した4年間でした。これはひとえに2補綴と2解剖の皆様および、4年間も好き勝手にさせてくれた両親、そして忘れてはならない多くのラットたちのおかげと大変感謝しています。

そしてもう1人、同期の好敵手（勝手にそう思っているだけです）池田君にも感謝しなくてはいいでしょう。僕の研究は動物を用いた組織学的な研究ということで、主に2解剖で研究をさせてもらっていましたが、2解剖には口腔外科から研究に来ていた池田君がいました。常に刺激しあえるライバル池田君がいたからこそお互い苦しいこと（解剖実習のライターは本当につらかった…）も乗り越え、卒業までたどり着けたのかなと思います。やっぱり、どのような境遇にあっても身近にライバルがいるということはいいいことです。そしてお互いの切磋琢磨は昼間のまじめな研究？にとどまらず、積極的に2人で夜の研究の場を求めてさまよってました、古町を。夜の古

町では池田君は社長と呼ばれ、そして僕は課長でした…。楽しかったなあ。本当にありがとう。

つきなみな表現ですがこの4年間は本当にあっという間で、この間に自分が歯科医師としてどれだけ成長できたのか今の僕にはわかりません。しかし、この楽しい4年間があったからこそこれから待ち受けているであろう厳しい現実にも楽しそがんばって立ち向かっていけると思っています。もう一度人生をやり直すとしたら、受験勉強や国家試験の勉強は2度としたくないけれど、大学院生活の4年間はもう一度やってもいいかなあ？

大学院修了にあたって

小児口腔科学分野 飯 澤 二葉子



修了を目前にした今、ようやく研究、臨床ともに入口に辿り着いたように感じております。入学当初、大学院とは何なのか全く理解しておらず、志気をあげることに時間がかかってしまい、多くの時間を無駄にしてしまったことが、今更ながら悔やまれてなりません。しかし、結果としての実力云々はともかくとして、大学院で学ぶことができて本当に良かったと思っております。

小児歯科においては、臨床その他、日々、多くのご指導やご助言を賜りました先生方、先輩方に深謝しております。不器用物の私が、現在、こうして研究を続けていられるのも、野田教授をはじめとする諸先生方の寛大な御心あってこそのことと思っております。私は臨床に関してあまりにも要精進であるため、コメントが難しいのですが、とにかく今後は努力あるのみと考えております。

また私は、細胞機能制御学で研究を指導していただいております。あまり馴染みのなかった研

研究室に、予備知識も心構えもなしに足を踏み入れた私は、かなり長い間、右往左往し続けました。そんな情けない院生だったにもかかわらず、常にご懇篤なご指導を下さった川島教授と諸先生方への感謝の気持ちを言い表すには、どのような言葉も役不足だと思います。真摯で謙虚だからこそ洗練されて美しい研究の世界というものを垣間見ることができたこと、尊敬できる多くの人達に出会えたことは、非常に幸運なことでした。このような素晴らしい機会に恵まれることは、今後もなかなかあることではないと思います。この研究室において学んだことは長い学生生活の総まとめにふさわしいものであり、素晴らしいものであった、と、自信を持って言うことができそうです。

このように大学院で得ることができた経験は、私にとって非常に大きく、すばらしかった故に、諸刃の剣なのだと思います。それを生かすも殺すも自分次第、ということを経験に銘じて、気持ちも新たにがんばっていきたいと思っております。

最後に、ここまで心身ともに支え、見守ってくれた両親と夫にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

大学院修了にあたって

咬合制御学分野 川 原 のぞみ



4年前、6年間の長い学生生活を終え、矯正科へ入局し大学院生となりました。また、学生？ 学割？ 考えてみれば10年間、新潟大学の学生として過ごしてきたことになり、自分でも

この長い年月には驚いてしまうほどです。

大学院4年間は、放射線科にお世話になり、CTに関係した研究をさせて頂きました。研究室は快適で良い環境のうえ、周りの先生方からもたくさんのアドバイスを頂いて、研究を進めることが出来ました。また、他科の仲間の研究に対するすごい頑張りには驚きながらも、後押しされて過ごしてきました。常に感心させられていた私としましては、この原稿の執筆依頼を頂いたときは本当に戸惑ってしまいました。今は、私自身大学院生活を終えることにホッとしています。昔からスローペースなので、4年間といっても、なかなか余裕をもって仕事をすることはできませんでした。周囲にはおそらく迷惑をかけたことと思いますが、失敗をたくさん繰り返して仕事の手順というものを学べたような感じがします。また、夜遅くまでいても、次の日は大丈夫だというくらいの体力もつきました。この4年間、矯正だけでなく、一歩抜け出して他科の先生方と交流をもてましたこと、考え方をお聞きすることができたことは良い経験でした。卒後も幅広く交流をもち、臨床や自分の考え方を振り返りながら少しでも成長できたらと思います。

大学院生と呼ばれながらも臨床にもかなり参加しました。でも、矯正は奥の深い学問ですし、まだまだたくさん学ぶことがあります。これからも臨床経験を増やして、早く確かな技術と知識を身に付けたいと思っています。このことのためには大学院の経験が生かせそうです。

最後に、お世話になりました先生方や励ましあった仲間に感謝したいと思います。また、夜遅くでもご飯に誘ってくれた先輩や、付き合ってくれた後輩にも感謝しています。本当にありがとうございました。